



書き初め大会について

3学期が始まり、各学年で書き初め大会を行いました。1・2年生は硬筆で、3年生以上は毛筆で書き初めを行いました。書き初めは、元々、平安時代の宮中行事の一つだと言われています。それが、歴史を重ねていくうちに、江戸時代以降、「読み書きそろばん」の「書き」に変化し、明治時代には学校教育に取り入れられました。以降、国語科（書写）の学習の一部になっています。

書き初めをする意味には、書くことの上達と新たな一年に向けての抱負を示すことが、挙げられます。小学校ではどちらかと言えば、後者の目的の方が強いと思います。子どもたちは、一文字一文字丁寧に文字を書いていたので、新年の改まった思いを書に表している様子がうかがえました。

昔は、家庭や地域で書き初めをしているところがありました。今ではかなり減っているのではないのでしょうか。また、タブレット端末の利用で、鉛筆で文字を書くことが少なくなり、実際に手を動かして書くことが貴重な体験になりつつあります。筆も、学校や習字教室でしか、握らなくなっています。これからますます手で書くことが減ってくるでしょう。だからこそ、丁寧に文字を書くことが大切になるのではないかと思います。

できた作品については、各学年内で審査を行い、校内での入選作品を決める予定です。

学級委委員長任命式

1月15日（水）にTV放送で学級委員の任命式を行いました。やまぶきと4年生以上の学級で、男女1名ずつ（やまぶきは、男女問わず1名）学級委員を決めます。学級の支持を得た子どもたちが、今年度最後の学期の総まとめをするためにリーダーシップを発揮することを期待しています。学級委員以外の子どもたちも、学級委員と一緒によりよい学級づくりに関わってほしいと思います。子どもたち自身が、「勇気」をもって、「本気」で「和気あいあい」の学級にすることを望んでいます。

